

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	生物学ⅠB	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	水1
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	(1) 授業の概要 人文系の学生でも「生物としての人間」という視点を持つことは重要である。どのような職業に就こうと、ヒトは生涯のうちにほぼ必ず病気をし、老いる。若いうちに生物学の知識を身につけておけば、自分と家族の健康を守るために必ず役に立つ。言うまでもなく、人体や細胞の構造に関する知識は世界共通であり、どの国で働く場合にも、自分の健康を守るために大いに役立つはずである。また、後半に取り上げる光合成について知ることは、世界の環境問題を理解する上で重要である。 実利的な面以外にも、「私の身体は（細胞は）こんなすごいことを毎日やっていたのか！」と気付いてもらえればうれしい。 (2) 授業の目的 人体各器官の構造とはたらきについて理解する（病院や医務室のポスター内容が理解できる程度まで）。次いで動植物の細胞の構造と機能、特にエネルギーの獲得方法などについて理解を深め、「呼吸」「摂食」「光合成」「細胞の進化」の相互関連を理解する。 (3) 授業形態 対面、数回オンデマンドを挟む。ただし感染状況によっては、全面オンライン（オンデマンド）に変更することがあり得る。初回講義はZOOMで行う。資料はGoogle Classroomで配信する。対面講義が可能な場合は、途中で何回か、学生参加による「生物学演劇」を行って理解を促進する（感染状況によっては、朗読版の配信を行う）。 期末試験は（現段階では）対面を考えているが、オンライン提出にする可能性がある。また対面の試験となった場合にも、対面が無理な学生に関してはオンライン提出の相談に応じる。 (4) 必要な準備学習 講義の後、その日のうちに直ちに復習することが望ましい。日数がたつほど記憶への定着が悪くなるからである。「分かるまで」、あるいは「分からない部分が分かって質問できるようになるまで」復習すること。 講義時間外に、目黒にある国立科学博物館附属自然教育園での観察会を行う。もしくは上野の国立科学博物館にて展示の見学をする。この課題については初回講義の資料で詳しく説明する。 This lecture is about the structure and function of animal (including human) and plant organs, tissues and cells. A dramatic approach is used for gaining an understanding of metabolism, especially respiration and photosynthesis. The students will observe wild plants, fungi, insects and birds in Tokyo and Chiba.		

到達目標	
授業内容 授業形態	対面
評価方法 ※	定期試験、講義外課題のレポートを総合して評価する。詳しくは初回講義の資料にて。
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	児童英語指導法（Listening & Speaking）A	単位数 ※	4
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	水1・2
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	本科目では、早期英語学習者を対象とした教授法のうち、学習者の英語音声の聴解・産出能力が向上するように英語音声指導法を学び、履修者が将来の児童英語指導者や小学校教員として指導技能や指導能力を高めることを目的とする。小学校英語が5、6年生で教科となり、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を扱うようになった。3、4年生では「外国語活動」として必修となり、「聞く」「話す」音声中心の活動を高学年の文字の「読み・書き」の指導へ円滑に接続するように求められている（文部省、2017）。英語と異なる言語体系を持ち、EFL環境の我が国において子どもに英語を教えていくためには、英語音声と日本語音声の違い、幼児・児童の年齢や認知の違いを捉え、音声指導が読み書きのリテラシーを支える土台となることを十分理解した上で、体系的な指導法を習得する必要がある。授業は実践演習形式で進めるため、授業への積極的な関わりを期待する。		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	授業計画・授業案立案 20% 実技演習 50% 授業への貢献 30% レポート、授業デモ、授業への貢献度を考慮して総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	現代イベリア研究Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	水 1
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	「現代イベリア研究」は、昨年度から始まる新設科目で、「イベリア史概論」や「ラテンアメリカ史」等を履修或いはそれらに関心を持つ受講者が、国民国家の道を歩んだイベリア両国（スペイン・ポルトガル）の起点とその後の歴史をより深く学び、イベリア諸国は勿論多文化共生に関する豊かな教養と国際社会に貢献できる教養を身につけることを目指します。この授業では、時代を18世紀後半から20世紀・1939年のスペイン内戦の終了までに限定して、イベリア両国の政治経済の歴史の理解を深めます。国民国家を扱う以上、時代を18世紀後半から現代までに限定し、さらに政治経済の側面に注目する点がイベリア史概論と異なります。 この授業を学ぶ上で心得ておく視座は次の通りです。①独立したイベロアメリカ諸国との関連を移民象などを通じて把握する。②他の欧州諸国やアフリカとの接近や離反を把握する。③農業社会・工業社会・情報社会へと移行する文明史論を背後に持つ。この授業は、上のような対象、視点を持ちつつ、主に講義形式で行います。同時に、授業に関連する歴史や地理、文化人類学の質問を挟むので漫然と授業に臨まないように。必要な参考文献の箇所を熟読しておくことも期待される。復習する際の眼目は、その日の内容を書き言葉にして要約し、難しい概念を別の易しい言い回しに変えることです。さらに、期末レポートの他小レポートが課されます。 スペイン・ポルトガルはイギリスやドイツの人々も憧れた土地であるから、この授業は両言語に関わる学生だけでなく、英米語を専攻した学生にも大いに学んで貰いたいことを付記しておきます。		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		

評価方法 ※	期末レポートをはじめ数回のレポート 70 %、授業発表貢献点 30 % の割合で合算して成績を出す。レポートは講評を行って返却する。
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	東南アジアの宗教と文化 I E	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	水 1
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	上座部仏教とは、東南アジア大陸部のミャンマー、タイ、ラオス、カンボジアにて多数派の人々が信仰している仏教のことです。ただし、同じ仏教でも、私たちの知る日本の仏教とは大きく異なっています。例えば、上座部仏教の僧侶は、一般の人々を救うためではなく、基本的には自分自身の救済のために出家しています。それなのになぜ僧侶は、人々から広く尊敬を集めているのでしょうか。本授業では、上座部仏教について、こうした基本的な考え方や実践内容を学ぶとともに、伝統的な王権との関係や、現代社会への対応、女性の出家問題などを考えます。		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	1) リアクションペーパー： 10% 2) 課題： 40% 3) 期末テスト： 30% 4) 小レポート： 20% 5) 欠席は1回につき減点4%		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	総合福祉 コミュニティ政策
科目名 ※	憲法	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 前学期	曜日・時限 ※	水曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-202
学修分野			
授業目的 ※	日本国憲法に関する基本的枠組みについて、人権保障・統治機構の両面から理解するとともに、社会問題について憲法的観点から考えられるようになることを目標とする。		
到達目標	・全体を通じて、日本国憲法の基本構造を学び、法学における基本的な思考ができるようになる。 ・各回の授業テーマとなっている事項について、歴史的背景とその意義、現代的課題を把握できるようになる。 ・一つの事例の背景に潜んでいる様々な問題を想定し、多角的視野から物事を考えられるようになる。		
授業内容 授業形態 ※	この講義では、我が国の最高法規である日本国憲法の基本構造、全体像および具体像について、理論的な観点だけでなく、具体的な事例に即して検討する。 授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため2つの授業形態別に記す。 【遠隔授業】 単元内容についての解説動画を配信する。 次に、4～6人程度のグループに分け、チャットアプリ上で当該単元に関する事例についてグループディスカッションを行ってもらおう。ここで行った議論内容を踏まえ、個人課題として自己の見解を論述する小レポートに取り組んでもらう。 【対面授業】 まず講義形式を中心に単元内容についての解説を行う。 次に受講生数に応じて、アクティブラーニングとして、個人単位または4～6人程度のグループ単位で当該単元に関する事例について議論を行ってもらおう。そして、ここで行った議論内容を踏まえ、個人課題として自己の見解を論述する小レポートに取り組んでもらう。		

評価方法 ※	・平常点については、授業中の質疑応答、論述形式の小レポート等を評価対象とする。小テスト・グループワークの詳細については授業において説明するが、評価基準として、以下の点を重視する。 ・憲法上の問題点を発見し、自己の見解が論理的・説得的に述べられていること。 ・多角的視点から検討できていること。 ・期末レポートにおいては、設定されたテーマについて論点を抽出し、情報を精査した上で論理的に自分の意見を構築し、課題解決に向けて適切で効果的な表現方法を用いて文章を作成できているか、という観点から評価する。
評価基準	・期末レポート（70点：70点）、平常点（30点：30点）の合計100点で評価する。
テキスト	ISBN：9784589038494, 「ベーシックテキスト憲法 第3版」, 君塚正臣：河野良継, 法律文化社, 2017年 →網羅的に記述されており、公務員志望者におすすめです。 ISBN：9784767002453, 「憲法のいま補訂版 日本・イギリス」, 倉持孝司：小松浩, 敬文堂, 2021年 →外国と比較されており、海外の事情に興味ある人におすすめです。補訂版が最新版です。間違えて古い版を買わないよう注意してください。
注意事項	授業中の私語は慎むこと。 教科書及び各回の授業で配布した授業プリントは必ず毎授業持参すること。 教科書を必ず購入すること。 授業の予習事項については、カッコの無いものがテキスト『憲法のいま』の予習範囲を、カッコ内がテキスト『ベーシックテキスト憲法』の参照箇所になります。 事後学習（事後課題）の具体的論題については当回の授業内容に則したうえで、時々 の時事問題を踏まえて設定するため、授業中に明示します。
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	児童英語指導法 (Listening & Speaking) A	単位数 ※	4
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	水1・2
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	本科目では、早期英語学習者を対象とした教授法のうち、学習者の英語音声の聴解・産出能力が向上するように英語音声指導法を学び、履修者が将来の児童英語指導者や小学校教員として指導技能や指導能力を高めることを目的とする。小学校英語が5、6年生で教科となり、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を扱うようになった。3、4年生では「外国語活動」として必修となり、「聞く」「話す」音声中心の活動を高学年の文字の「読み・書き」の指導へ円滑に接続するように求められている（文部省、2017）。英語と異なる言語体系を持ち、EFL環境の我が国において子どもに英語を教えていくためには、英語音声と日本語音声の違い、幼児・児童の年齢や認知の違いを捉え、音声指導が読み書きのリテラシーを支える土台となることを十分理解した上で、体系的な指導法を習得する必要がある。授業は実践演習形式で進めるため、授業への積極的な関わりを期待する。		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	授業計画・授業案立案 20% 実技演習 50% 授業への貢献 30% レポート、授業デモ、授業への貢献度を考慮して総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	歴史学	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	木曜 5限
キャンパス※	敬愛大学稲毛キャンパス	教室※	別途指示する
学修分野			
授業目的 ※	国際的な視野で多様な共生社会の課題に取り組む能力を身につけるため、「歴史とは何か」「歴史を学ぶ意義」を問いながら、今後新しく展開される近現代史の論点を知ることにあります。		
到達目標	歴史の連続性や歴史の同時代性の視点から現在の日本、及び国際情勢を理解し、課題を発見し、自分自身の言葉で説明できることにあります。		
授業内容 授業形態 ※	履修の条件は特にありません。リアクションペーパー、数回の小テストをおこないます。また、学期末には授業のまとめとなるレポートを作成してもらいます。リアクションペーパーや小テストは、コメントをつけて、返却します。		
評価方法 ※	①授業への取り組み(50%)、②レポート(50%)		
評価基準	優:自ら問題を発見し、積極的に授業の課題に取り組み、自らが発見した問題意識を解決するための調査をおこない、優れたレポートを作成できる。 優:自ら問題を発見し、積極的に授業の課題に取り組み、自らが発見した問題意識をまとめ、調査し、レポートを作成できる。 良:授業のねらいと到達目標を基本的に理解し、授業の課題に取り組み、その中から問題意識をまとめ、レポートを作成できる。 可:授業のねらいと到達目標に一定の理解をもち、授業の課題に取り組み、授業内容をまとめたレポートを作成できる。 不可:授業のねらいと到達目標に対する理解、及び授業の課題への取り組みが不十分で、授業内容を踏まえたレポートが作成できない。		
テキスト	本授業の内容は、多分野にわたるため、教科書は指定しません。授業用に作成した講義ノート及び資料を配布し、教科書の代わりとします。		
注意事項	①予習:シラバスに沿って、次回取り上げる講義のテーマを下調べをし、予習ノートにまとめます(90分以上)。 ②復習:各回の講義内容をノート・プリントを基にふり返り(40分以上)、「問い」に対する答えを復習ノートにまとめます(50分以上)。 国際的なニュースに関心をもつことも重要な予習・復習となります。		
授業シラバス	別途PDF参照		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名 ※	地域防災論	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 前学期	曜日・時限 ※	水曜3限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	5-201
学修分野			
授業目的 ※	災害について、その発生メカニズムを理解し、災害予防及び災害対策等に関する知識・技術の習得を図り、安全・安心に向き合う心構えを身に付ける。また、防災関係機関の所管業務や地域での防災関係組織についての理解を深めることにより、地域防災に貢献できる人材を育成する。		
到達目標	災害に関する地域の諸課題について、自主的な判断で対応できる知識及び技術を習得する。また、日常生活の場において発生する突発的な出来事に対し、トレードオフ関係を含んだ複数の選択肢の中から最適な手段（結果）を選択することにより、被災時に、まず自らの命を守り、その上で家族や近隣の被災者を救済できる能力を身に着けることを目標とする。		
授業内容	災害発生のメカニズムや地理的特性、防災関係機関と防災関係法令の概要、災害に関する危機管理のあり方、地域防災対策の在り方と問題点等について講義する。あわせて、災害対応の基本である公助に近隣や近隣や地域社会を基盤とする防災活動（共助）や個人をベースとした草の根防災力（自助）の充実の必要性・あり方等について考察する。さらに、過去の災害伝承、言い伝え、教訓について学習する。		

授業形態 ※	授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため2つの授業形態別に記す。 講義形式で授業を行うが、インタラクティブ（アクティブラーニング）な授業も取り入れる。 【遠隔授業】 毎回、解説付きの授業資料および取り組むべき課題を配信する。 適宜、課題の提出を求め、次回に解説を行う。 さらに、授業内容に関して受講生から質問を受け付け、次回講義時に回答し受講生全員で共有することにより双方向型（アクティブラーニング）の授業を行う。 【対面授業】 講義形式の授業を行う。毎回授業の終了時にリアクションペーパーなどにより授業内容の質問、その他防災全般に関する質問を受け、次回授業時に回答、解説を行う。その他、随時質問を受け回答する。 【実務経験のある教員による授業科目】 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 詳細は以下をご参照ください。 川越市副市長、川越市災害対策本部副本部長を歴任。台風等の災害に指揮、監督。東日本大震災に際して、被災地に川越市職員を派遣し、指揮監督。
評価方法 ※	授業参加、リアクションペーパー、事前・事後学習レポート、試験等により、防災に関する知識、技術の習得状況等を総合的に判断する。
評価基準	授業参加状況等30点（全15回を通して、出席、リアクションペーパーの提出、質問等）、レポートの提出20点、授業内試験50点
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。
注意事項	日頃から気象情報、災害情報などに関心を持ち、防災に役立つ関係情報の収集を行う。
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	憲法A	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金曜 2限
キャンパス※	敬愛大学稲毛キャンパス	教室※	別途指示する
学修分野			
授業目的 ※	憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史のなかで捉え、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくことを目的とします。		
到達目標	憲法の原理や考え方を正しく理解し説明できることです。		
授業内容 授業形態 ※	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開していきますが、法学入門を併せて履習することが望ましいです。毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。 授業内容に応じてデユベートやデスカッションを行い、それぞれのテーマを学生一人一人がフートバックし授業への参加意欲を高めます。		
評価方法 ※	平常点(授業内に適示おこなうリアクションペーパーや任意課題レポート)20%、確認試験80%で評価します。確認試験の解答は試験終了後に解説します。		
評価基準	秀:授業のねらいを越えて憲法的思考を深めるレベルに達している。 優:授業のねらいがほぼ達成できており、憲法的思考もできるレベルにある 良:授業のねらい・内容が到達目標に 達成し,概要を正しく 説明できる。 可:授業のねらい・内容が到達目標に 達成している。 不可:授業のねらい・内容が達成されておらず概要を説明できない。		
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説』八千代出版		
注意事項	授業内容をよりよく理解するため、予習においては、教科書等を読み(30分以上)、用語の確認、よく理解できない点を確認し(60分以上)、復習においては講義内容の復習(30分以上)や基本事項・重要事項・ポイントの理解確認に努め説明できるようにしましょう(60分以上)。		
授業シラバス	別途PDF参照		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	現代国家論Ⅰ	単位数 ※	
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	古代ギリシア以来、「国家」についてさまざまに論じられてきたことは事実であるが、現在の我々がイメージする国家と古代の国家とはかなり異なっている。現代の国家は、古代の「都市国家」でも中世的「帝国」でもなく、その歴史はそれほど長いものではない。ヨーロッパに源流を持つ「近代国家」は、主権と領土（国境）と国民からなるとされるため、「主権国家」、「領域国家」、「国民国家」等さまざまな呼び方がなされている。ところが、その近代国家は、今、EU統合（およびイギリスの離脱）に見られるように、その発祥の地において新たな展開を見せている。 また、冷戦構造の終焉は、イデオロギーによる国家統合を危うくし、各地で「民族紛争」「宗教紛争」を引き起こしている。また、一極化したと言われる冷戦後の世界で支配力を強めたアメリカは、他の国を「悪の帝国」とか「悪の枢軸」「ならず者国家」などと呼んで非難し、武力攻撃さえ辞さない姿勢を見せている。果たして国家に「良い国家」と「悪い国家」があるのだろうか。そもそも、国家の正当性の根拠はどこにあるのだろうか。こうした問題を考えるために、本講義では、ビデオ映像などを使いながら、歴史的、地理的な視野からできるだけ多くの生の現実に当たることで「国家」をめぐるさまざまな現状を把握することに努めたい。その上で、改めて「国家とは何か（どうあるべきか）」を考えるための素地としたい。		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	この授業は対面で行う予定。毎回の理解度を測るミニレポート（50％）と最終レポート（50％）の総合評価。		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経営学科												
科目名 ※	商業簿記Ⅰ	単位数 ※	2												
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	水-4												
キャンパス※		教室※	2-201												
学修分野															
授業目的 ※	企業の管理・運営について学んでいく上で、簿記・会計に関する知識は必要不可欠です。本講義では、企業の財貨の流れを記録・計算し、財務諸表（貸借対照表と損益計算書）を作成するという、簿記一巡の基本的な記帳技術を修得することを目標とします。 本講義は会計コース、金融コースの基礎となる講義です。会計コース、金融コース所属者は必ず履修し、目標とする資格を取得してください。 なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【経営学に関する専門知識や技能】の修得に資する科目です。 《参考》検定試験の難易度・授業と資格試験の対応（3年生以上は（ ）の科目） <table><tr><td>資格</td><td>授業</td></tr><tr><td>(易)全経3級</td><td>商業簿記Ⅰ(初級簿記Ⅰ)／商業簿記答練Ⅰ(経営学・会計学特別講義A)</td></tr><tr><td>日商3級・全経2級</td><td>商業簿記Ⅱ(初級簿記Ⅱ)／商業簿記答練Ⅱ(商業簿記答練Ⅰ)</td></tr><tr><td>日商2級</td><td>商業簿記Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ(中級簿記Ⅰ・Ⅱ)・工業簿記Ⅰ・Ⅱ</td></tr><tr><td></td><td>／商業簿記答練Ⅲ(商業簿記答練Ⅱ)・工業簿記答練</td></tr><tr><td>(難)全経1級・日商1級</td><td>商業簿記答練上級・工業簿記上級</td></tr></table>			資格	授業	(易)全経3級	商業簿記Ⅰ(初級簿記Ⅰ)／商業簿記答練Ⅰ(経営学・会計学特別講義A)	日商3級・全経2級	商業簿記Ⅱ(初級簿記Ⅱ)／商業簿記答練Ⅱ(商業簿記答練Ⅰ)	日商2級	商業簿記Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ(中級簿記Ⅰ・Ⅱ)・工業簿記Ⅰ・Ⅱ		／商業簿記答練Ⅲ(商業簿記答練Ⅱ)・工業簿記答練	(難)全経1級・日商1級	商業簿記答練上級・工業簿記上級
資格	授業														
(易)全経3級	商業簿記Ⅰ(初級簿記Ⅰ)／商業簿記答練Ⅰ(経営学・会計学特別講義A)														
日商3級・全経2級	商業簿記Ⅱ(初級簿記Ⅱ)／商業簿記答練Ⅱ(商業簿記答練Ⅰ)														
日商2級	商業簿記Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ(中級簿記Ⅰ・Ⅱ)・工業簿記Ⅰ・Ⅱ														
	／商業簿記答練Ⅲ(商業簿記答練Ⅱ)・工業簿記答練														
(難)全経1級・日商1級	商業簿記答練上級・工業簿記上級														
到達目標	個人商店・小規模企業が行う基本的な帳簿記入に関する手続（全経3級程度）を身につけることを目標とします。 会計事務所等へのインターンシップなどで生かせる知識・技術を習得することを目標とします。														

授業内容 授業形態 ※	第1回 ガイダンス 身のまわりの簿記 第2回 仕訳と転記 第3回 現金と当座預金(1)：現金の範囲と小切手を使った取引の処理 第4回 商品売買(1)：三分法による仕入・売上と値引・返品処理 第5回 商品売買(2)：商品売買関連の帳簿 第6回 現金と当座預金(2)：当座借越の処理 第7回 手形の処理(1)：振り出し・受け取りと裏書き・割引き 第8回 手形の処理(2)：手形記入帳 第9回 債権債務の処理 第10回 商品売買一連の処理 第11回 有価証券と有形固定資産 第12回 決算の手続き(1)：試算表の作成 第13回 決算の手続き(2)：決算整理仕訳 第14回 決算の手続き(3)：精算表・財務諸表の作成 第15回 決算の手続き(4)：財務諸表の公表
評価方法 ※	課題30%、期末試験70%とします。 課題の間違が多い部分について次回授業時に解説します。
評価基準	
テキスト	蛭川幹夫『基本簿記』実教出版。 蛭川幹夫『基本簿記演習』実教出版。
注意事項	簿記の学習にあたり、問題演習は欠かせません。しかし、授業中に十分な演習時間を設けるには限りがあります。そこで、商業簿記答練Ⅰ(経営学・会計学特別講義A)という別の授業で、商業簿記Ⅰ(初級簿記Ⅰ)の進度に合わせた問題演習を行っています。 商業簿記Ⅰ(初級簿記Ⅰ)と商業簿記答練Ⅰ(経営学・会計学特別講義A)を同時に履修し、たくさん問題演習を行い、できるだけ確実に資格取得ができるように学習してください。 なお、当講義では全経3級試験を受験します。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	法学A	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金曜 2限
キャンパス※	敬愛大学稲毛キャンパス	教室※	別途指示する
学修分野			
授業目的 ※	社会生活に必然する法を理解するために必要な基本原理・原則・基礎理論、用語の学習を通して法律学(法学)への導入とし、次に社会生活における法的思考方法、法律的なものの考え方(legal mind)を具体的事例、判例などによって理解することを目的とします。		
到達目標	今日、とくとくと流れる国際社会のなかで言語習慣、考え方の相違する人達が共存していくために必要不可欠な学習に他なりません。これらのことを理解し日々の生活にいかせることです。		
授業内容 授業形態 ※	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開します。毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。授業内容に応じてデユベートやデスカッションを行い、それぞれのテーマを学生一人一人がフートバックし授業への参加意欲を高めます。		
評価方法 ※	平常点(授業内に適示おこなうリアクションペーパーや任意課題レポート)20%、確認試験80%で評価します。確認試験の解答は試験終了後に解説します。		
評価基準	秀:授業のねらい・内容を正しく理解しリーガル・マインドができるようになり、社会生活において適用できるようになる。 優:授業のねらいがほぼ達成できており、法的思考もできるレベルにある。 良:授業のねらい・内容が到達目標に 達成し,概要を正しく 説明できる。 可:授業のねらい・内容が到達目標に 達成している。 不可:授業のねらい・内容が達成されておらず概要を説明できない。		
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説』八千代出版		
注意事項	授業内容をよりよく理解するため、予習においては、教科書等を読み(30分以上)、用語の確認、よく理解できない点を確認し(60分以上)、復習においては講義内容の復習(30分以上)や基本事項・重要事項・ポイントの理解確認、新聞等関連記事による生きた法学習に努め、これらのことを説明できるようにしましょう(60分以上)。		
授業シラバス	別途PDF参照		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	総合福祉
科目名 ※	ボランティア・市民活動論 A	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 前学期	曜日・時限 ※	水曜5限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-502
学修分野			
授業目的 ※	社会福祉をはじめとした幅広い分野で活動する際、一般的に「ボランティア」とはどのように捉えられているか、「ボランティア」とは、具体的にどのような活動があるのか、活動分野、種類、関連制度に関する基本的な知識を身につけます。		
到達目標	ボランティア活動をすでにやっている人、これからやってみようと思っている人、それぞれの思いや考えがあると思いますが、社会福祉をはじめ幅広い分野で活動する際の、「ボランティア」の基本的な知識を習得することを、この授業の到達目標とします。		
授業内容 授業形態 ※	「ボランティア」という言葉を、私たちは日常的に使っていますが、そもそも「ボランティア」とは何なのでしょう？また、社会福祉と「ボランティア」のつながり、「ボランティア」の思想や考え方、「ボランティア」に関する各種機関、実際のボランティア活動の検証などをとおして、「ボランティア」に関する基本的な知識を習得します。 授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため2つの授業形態別に記す。 【遠隔授業】 授業資料等を配信し、体験談や各自の意見を求めるなど、アクティブラーニングの手法（双方向型授業）を導入します。 【対面授業】 講義形式で行いますが、授業内で体験談や各自の意見を求めるなど、アクティブラーニングの手法（双方向型授業）を導入して行います。 【実務経験のある教員による授業科目】 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 詳細は以下をご参照ください。 市町村社会福祉協議会に勤務し、ボランティア・市民活動におけるボランティアのコーディネートやボランティア講座を行った。		
評価方法 ※	レポート提出にて評価をいたします。なお授業における発言やリアクションペーパーの内容も評価いたします。		
評価基準	レポートの内容（90点）、授業内の発言やリアクションペーパーの内容（10点）合計100点にて評価。		
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		

注意事項	事前・事後学習を欠かさないでください。
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp

※は必須記入事項